

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。
お盆も過ぎ、夜になると秋の気配が感じられる今日この頃。とは言え、まだまだ暑い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

ロンドンオリンピックが終わりました。金メダルの数は少なかったものの、銀メダル、銅メダルは量産。選手の皆さん、お疲れ様でした。また次を目指して頑張ってください。

経済の世界では、毎年、各国がオリンピックをやっているようなものです。各国は豊かさを求め、経済政策や通商交渉を行います。もっとも、どのような社会を目指すのかという「目標」は国のよってマチマチ。豊かさの「基準」にもいろいろな考え方があります。

人口増加、経済成長を

前提とした二十世紀後半の日本。GDP(国内総生産)という豊かさを基準に考えてきました。一九六四年に西ドイツ(当時)を抜いて世界二位となったものの、二〇一〇年には中国に抜かれて三位に後退。

中国の人口は日本の十倍以上。中国の発展に伴い、総額で抜かれることは時間の問題でした。やむを得ないことです。

六月、国連が興味深い報告書を発表しました。

この報告書によると、国の「富」の基準は、①物的資本(機械、建物、インフラ等)、②人的資本(人口、教育と技能のレベル)、③自然資本(土地、森、化石燃料、鉱物等)の合計。

それによれば、トップは米国の百十八兆ドル。二位

は日本の五十五兆ドル。三位は中国の二十兆ドル。日本は中国の二・八倍であり、「一人当たりの富」では米

国を上回ってトップでした。このように、豊かさの評価は考え方や基準によって変わります。人口減少、安定成長に向き合わざるをえない二十一世紀の日本。柔軟に考えることが必要です。

しかし、「一人当たりの富」で日本をトップに押し上げている教育レベルや豊かな自然も、安泰ではありません。それを維持し、高めていくための努力をしなければ、やがてはこの基準でも日本の順位は後退します。

ロンドンで活躍した選手たちに負けないよう、経済のオリンピック、国づくりのオリンピックでも頑張ります!!

※



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣、前厚生労働副大臣。地元寛王山に事務所を開き、地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ11年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

毎月21日、寛王山日泰寺は

「弘法さん」

「かわら版配り」ボランティア募集!

21日の8:40~10:30頃山門へおいでください。

お問い合わせ:052(757)1955 大塚耕平事務所(黒田/佐久岡)

